

## 【基調講演&ワークショップ】

講師：真嶋潤子氏（国際交流基金関西国際センター所長）

テーマ：「異文化間教育と CEFR-CV：見えない日本文化を考える」

### 概要：

日本語教育において、日本文化が色濃く入り込んでいて学習者にわかりにくい事柄は多くあります。学習者の母語と一対一対応するような言葉や表現でなく、言う言わないも含め、文化的背景を知らないで理解できない「見えない文化」は、古くて新しい課題でしょう。

「直訳できない表現」の文化的背景を考えてみましょう。例えば、日本語では「それは、ちょっと...」と言うことで、断っていることを意味する場合があったり、返事を曖昧にして、はっきり「No」と言わないことなど、多くの日本語母語話者にとっては無意識にしている言語行動かもしれませんが、学習者にはわかりにくいことが多々あります。

今回の講演では、このような「見えない文化」について、「異文化間理解（教育）」に関する理論を紹介した後、それらの CEFR-CV での扱われ方も確認したいと思います。そして日本語について、例を挙げながらその意味や使い方、背景を参加者のみなさんと一緒に考え、日本文化のどのような特質があるのかを考えてみたいと思います。また、学習者にはどう理解（あるいは誤解）されるのか、つまりきやすい点も考えてみたいのです。

その後、ワークショップでは、具体的にみなさんが指導している学習者を念頭に、何をどのように教えることが可能かをグループで考え、サンプル指導案を作る協働作業をして、共有していただきたいと計画しています。

### 講師プロフィール：

真嶋潤子（まじまじゅんこ）

国際交流基金関西国際センター所長および大阪大学名誉教授  
博士（教育学・米国ジョージア大学）

大阪大学世界言語研究センターおよび大学院言語文化研究科において教授を務める。ドイツの複数の大学にて客員研究員を歴任。2021年に大阪大学名誉教授となり、2023年より国際交流基金関西国際センター所長に就任。外国にルーツを持つ子どもたちの言語教育や、CEFRを活用した教育評価の研究に注力し、日本語教育を通じて多文化共生社会の実現に貢献されている。

### 主要業績：

「CEFR-CVの『仲介』と複言語・複文化能力（共著）」（2024年）凡人社

(<https://www.bonjinsha.com/goods/detail?id=14440>)

*Emergent Bilinguals and Educational Challenges at Public Schools in Japan*（編著）（2023年）大阪大学出版

(<https://www.osaka-up.or.jp/book.php?isbn=978-4-87259-742-4>)

「CEFRの理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト（共著）」（2021年）くろしお出版

([https://www.9640.jp/book\\_view/?867](https://www.9640.jp/book_view/?867))